



平成 25 年 7 月 26 日

各 位

会 社 名 フリービット株式会社
(コード番号 3843:東証マザーズ)
本社所在地 東京都渋谷区円山町3番6号
代 表 者 代表取締役社長 石田 宏樹
問 合 せ 先 グループ経営管理本部長 清水 高
電 話 番 号 03-5459-0522(代表)
(URL <http://www.freebit.com/>)

(訂正)「平成25年4月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社は、平成25年6月26日付の当社適時開示「6月7日に開示致しました「当社連結子会社における不明瞭な取引及び会計処理に関するお知らせ」についての調査状況及び決算発表予定日についてのご報告」でお知らせしましたとおり、過年度決算短信の訂正作業を進めてまいりました。

このたび、平成24年12月7日付「平成25年4月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の訂正作業が完了しましたので、訂正内容についてお知らせします。

訂正箇所が多数に上るため、訂正前及び訂正後の全文をそれぞれ添付し、訂正箇所には下線を付して表示しております。

以 上

(訂正後)



平成25年4月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年12月7日

上場取引所 東

上場会社名 フリービット株式会社
コード番号 3843 URL <http://www.freebit.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石田 宏樹
問合せ先責任者 (役職名) グループ経営管理本部長 (氏名) 清水 高 TEL 03-5459-0522
四半期報告書提出予定日 平成24年12月13日
配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年4月期第2四半期の連結業績(平成24年5月1日～平成24年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年4月期第2四半期	10,427	3.2	366	47.0	246	△29.2	△158	-
24年4月期第2四半期	10,105	△0.7	249	-	347	-	△45	-

(注) 包括利益 25年4月期第2四半期 △237百万円 (-%) 24年4月期第2四半期 △47百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年4月期第2四半期	<u>△8.05</u>	-
24年4月期第2四半期	<u>△2.28</u>	-

- 当社は、平成24年5月1日付で株式1株につき400株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。
- 平成24年4月期第2四半期及び平成25年4月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年4月期第2四半期	18,133	6,252	32.8
24年4月期	18,690	6,764	34.2

(参考) 自己資本 25年4月期第2四半期 5,950百万円 24年4月期 6,386百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年4月期	-	0.00	-	3,000.00	3,000.00
25年4月期	-	0.00	-	-	-
25年4月期(予想)	-	-	-	9.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成24年5月1日付で株式1株につき400株の株式分割を行っておりますが、平成24年4月期の配当金については当該株式分割前の実績を記載しております。なお、25年4月期の配当金(予想)は株式分割後で記載しております。

3. 平成25年4月期の連結業績予想（平成24年5月1日～平成25年4月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,000	9.5	1,800	116.6	1,500	59.7	600	193.2	30.39

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

（注）詳細は、添付資料P.5「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年4月期2Q	20,411,600株	24年4月期	20,411,600株
② 期末自己株式数	25年4月期2Q	868,800株	24年4月期	556,000株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	25年4月期2Q	19,744,955株	24年4月期2Q	19,853,957株

（注）当社は、平成24年5月1日付で株式1株につき400株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して発行済株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(6) セグメント情報等	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループが判断したものであります。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要が出始めたことにより、穏やかな回復傾向にありましたが、欧州の財政危機や円高の長期化等により、景気の先行きは依然不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、平成25年4月期を中期経営計画「SiLK VISION 2013」の最終年度としての目標達成及び次期中期経営計画の橋渡しの期として、「Being The NET Frontier! (Internetをひろげ、社会に貢献する)」の企業理念の下、今後の飛躍的成長を遂げるため以下を基本方針と設定し、取組みを進めております。

<平成25年4月期 基本方針>

- ・固定網からMVNO (Mobile Virtual Network Operator、以下「MVNO」という。)を利用した独自性あるモバイルサービスへの積極的シフト
- ・接続サービスの対象を、PCからSmartPhone/Padなどの新しいモバイル端末にシフト
- ・独自性の高い仮想化技術を採用したVDC (Virtual Data Center、以下「VDC」という。)を中心としたクラウドサービスの拡大とMSP (Management Services Provider) の立上げ
- ・アドテクノロジーを活かした事業展開における市場の優位性の確立
- ・「Cloud@SD」の拡販によるM2M (Machine to Machine、以下「M2M」という。)領域への本格的市場参入

当第2四半期連結累計期間におきましては、成長性の高いクラウドサービスの拡充や、普及が進むモバイル端末を対象とした接続サービスの開発に注力いたしました。その結果、VDCをはじめ、クラウド領域におけるサービス提供が大幅に拡大し、利益に貢献いたしました。また、MVNOサービスは、子会社の株式会社ドリーム・トレイン・インターネット (以下、「DTI」という。)におけるエンドユーザー向け新サービスの提供開始が寄与し、モバイルユーザー数は前年同期の3倍以上となり、大幅に増加いたしました。また、アドテクノロジーインフラにおいてもサービスの品質向上及び営業体制の強化により取引が拡大いたしました。

これらの取組みが功を奏し、売上高は、前連結会計年度に積極的に実行いたしました構造改革プログラム「SiLK Renaissance」により撤退した事業の売上を除いたコア事業において、前年同期比9.0%増の10,427,025千円 (ノンコア事業売上高を含む前年同期比3.2%増)、営業利益は366,360千円 (前年同期比47.0%増)、経常利益は246,376千円 (前年同期比29.2%減) となりました。

また、当第2四半期連結会計期間におきましては、子会社のDTIとエグゼモード株式会社の合併による繰延税金資産の計上等により、法人税等調整額△417,205千円を計上しております。

一方、構造改革プログラム「SiLK Renaissance」の一環として、当社連結子会社である株式会社フルスピードが平成23年5月16日に株式譲渡をいたしました当時のアパレル子会社 (旧ギルドコーポレーション株式会社) に対する貸付金及び同アパレル会社の金融機関からの借入金に対する債務保証について、同アパレル会社より直近の業績は順調に推移しているという説明を受けているものの返済が滞っているという事実を鑑み慎重に判断した結果、貸倒引当金154,827千円及び債務保証損失引当金580,000千円を計上いたしました。その結果、四半期純損失は158,913千円 (前年同期は45,189千円の四半期純損失) となりましたが、同アパレル会社向けの貸付債権の引当金及び連帯債務保証損失の引当金計上は、当第2四半期連結累計期間で完了いたしました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結累計期間より、一部報告セグメントについて名称の変更を行っておりますが、セグメントの内訳に関しましては変更いたしておりません。

① ブロードバンドインフラ (旧ISP's ISP)

戦略的に固定回線依存の体質からの脱却を進め、光回線からMVNOへのシフトの準備が進み、モバイル通信の新規契約数も順調に増加しております。当第2四半期連結累計期間におきましては、モバイル通信の売上増加に加え、「CloudMail」を始めとするクラウドサービスの販売も順調に推移した結果、売上高は3,763,556千円 (前年同期比2.6%増) となりました。一方、子会社の株式会社ギガプライズにおいて、マンション向けISP事業の拡大を図るため、営業体制の整備や代理店開拓等にかかる先行費用が発生したことから、セグメント利益は486,674千円 (前年同期比5.0%減) となりました。

② クラウドコンピューティングインフラ (旧iDC's iDC)

当社の強みであるIPv6と仮想化技術を駆使したVDCサービスにおいて仮想サーバ稼働数及び契約社数は順調に推移いたしました。当第2四半期連結累計期間におきましても、SAP事業者をはじめとする新規顧客獲得及び大手企業からの受注が増加し、黒字転換しております。以上の結果、売上高は1,183,240千円（前年同期比30.0%増）、セグメント利益は43,214千円（前年同期は72,365千円のセグメント損失）と大幅な増益となりました。

③ 次世代インターネット・ユビキタスインフラ (旧Maker's Maker)

中国最大規模のコンシューマーエレクトロニクス企業であるaigo Digital Technology Co. Ltd.との提携によりユビキタス家電の販売を推進し、さらに、M2M領域におけるコアコンポーネントである「Cloud@SD」の開発を進め、シンプルなソリューションによる顧客提案の拡大を継続しております。当第2四半期連結累計期間においては、前連結会計年度においてノンコア事業である家電の自社開発から撤退したことに伴い、赤字幅を大幅に縮小し、利益率の高い独自性のあるソリューションへのシフトを推進いたしました。以上の結果、売上高は58,927千円（前年同期比88.5%減）、セグメント損失は183,606千円（前年同期は296,885千円のセグメント損失）となりました。

④ B2C

当第2四半期連結累計期間においては、子会社のDTIを中心に、成長著しいクラウド領域とモバイル通信領域に対して積極的な事業展開を行い、これまでの固定回線によるインターネット接続サービス依存から、「ServersMan@VPS」や「ServersMan@Disk」といったエンドユーザー向けクラウドサービスと「DTI WiMAX モバイルプラン」をはじめとしたMVNOサービスの提供に注力いたしました。また、月額490円で最大100Kbpsでの常時接続が可能なエンドユーザー向けの無線通信サービス「ServersMan SIM 3G 100」の提供を開始し、モバイルユーザー数を一層拡大させることに成功いたしました。一方、固定回線の依存体質から脱却を図る戦略のもと、今後継続課金の増加が見込めるモバイル会員の新規獲得に要する支援コストや初期費用が前倒しで発生したこと、前連結会計年度末に譲り受けたアルファインターネット事業の構造改革を行ったことから、セグメント利益については前年同期を下回りましたが、これらの施策は、第3四半期連結会計期間以降から利益に貢献する見通しです。以上の結果、売上高は2,241,148千円（前年同期比0.1%増）、セグメント利益は208,669千円（前年同期比30.0%減）となりました。

⑤ アドテクノロジーインフラ (旧InternetMarketing)

SEO（検索エンジン最適化）、リスティング広告（検索連動型広告）及びアフィリエイト広告等インターネットマーケティング関連の各種サービスの品質向上に向けた取り組みや営業体制の強化により、売上高が増加いたしました。また、アドテクノロジー技術を活かした広告プラットフォーム「AdMatrix」において、サービスツールの一つであるリスティング広告自動最適化ツール「AdMatrix SEM Optimizer」を提供開始いたしました。一方、テクノロジーを活かした事業展開で市場での優位性を確立すべく積極的な人材採用を継続したこと、また、第1四半期連結会計期間において、関連事業であるEコマースの運営費の増加及び賃料減額とグループ会社間の連携強化を目的とした連結子会社の本社移転に伴う費用が発生したことから、セグメント利益については減少いたしました。以上の結果、売上高は3,763,882千円（前年同期比19.5%増）、セグメント利益は139,211千円（前年同期比28.8%減）となりました。

⑥ SI

不動産向けシステム開発及びネットワーク提案を強化したこと及び労務コストを削減したこと等が寄与し、黒字転換いたしました。以上の結果、売上高は247,826千円（前年同期比4.6%減）、セグメント利益は16,550千円（前年同期は31,469千円のセグメント損失）となりました。

セグメント別売上高及びセグメント損益

(単位：千円)

区分	売上高	セグメント利益 又は損失(△)
ブロードバンドインフラ	3,763,556	486,674
クラウドコンピューティングインフラ	1,183,240	43,214
次世代インターネット・ユビキタスインフラ	58,927	△183,606
B2C	2,241,148	208,669
アドテクノロジーインフラ	3,763,882	139,211
SI	247,826	16,550
その他	75,299	△38,387
調整額	△906,856	△305,966
合計	10,427,025	366,360

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は18,133,408千円となり、前連結会計年度末と比べて556,931千円減少しました。これは主として、有利子負債の返済等により現金及び預金が376,895千円減少したことによるものです。

負債合計は11,881,198千円となり、前連結会計年度末と比べて44,957千円減少しました。これは主として、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金含む）が517,753千円減少したものの、債務保証損失引当金が580,000千円増加したことによるものです。

純資産合計は、主に配当金の支払いにより利益剰余金が減少したことや自己株式を取得したことにより、前連結会計年度末と比べて511,973千円減少の6,252,209千円となり、この結果、自己資本比率は32.8%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は4,484,052千円となり、前連結会計年度末と比較して349,699千円減少しました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動による資金は671,712千円の増加（前年同四半期は556,953千円の増加）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失が515,998千円あったものの、減価償却費が249,626千円、のれん償却額が438,582千円及び債務保証損失引当金の増加額が580,000千円あったことによるものです。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動による資金は420,309千円の減少（前年同四半期は322,065千円の減少）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が158,181千円及び無形固定資産の取得による支出が235,448千円あったことによるものです。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動による資金は606,122千円の減少（前年同四半期は204,007千円の増加）となりました。これは主に、長期借入れによる収入が810,000千円あったものの、長期借入金の返済による支出が1,327,753千円及び配当金の支払額が145,915千円あったことによるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間において、保守的観点により元子会社関連の特別損失を計上しておりますが、当損失の計上が当第2四半期連結累計期間で完了していること及び各コア事業が概ね順調に推移していることから、通期の業績予想につきましては、平成24年6月14日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(減価償却方法の変更)

国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年5月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益は増加、税金等調整前四半期純損失は減少しておりますが、その影響額は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,873,975	4,497,080
受取手形及び売掛金	<u>3,298,403</u>	<u>3,056,223</u>
商品及び製品	269,595	<u>217,649</u>
仕掛品	16,601	68,049
原材料及び貯蔵品	10,248	9,299
その他	<u>2,506,077</u>	<u>2,588,830</u>
貸倒引当金	<u>△174,683</u>	<u>△203,556</u>
流動資産合計	<u>10,800,218</u>	<u>10,233,576</u>
固定資産		
有形固定資産	<u>1,245,910</u>	<u>1,355,403</u>
無形固定資産		
のれん	<u>4,254,838</u>	<u>3,911,229</u>
ソフトウェア	<u>183,318</u>	<u>287,095</u>
その他	49,740	40,190
無形固定資産合計	<u>4,487,897</u>	<u>4,238,514</u>
投資その他の資産		
投資有価証券	1,233,718	1,233,847
差入保証金	493,890	482,031
その他	<u>842,499</u>	<u>1,155,617</u>
貸倒引当金	<u>△413,795</u>	<u>△565,583</u>
投資その他の資産合計	<u>2,156,313</u>	<u>2,305,913</u>
固定資産合計	<u>7,890,121</u>	<u>7,899,832</u>
資産合計	<u>18,690,339</u>	<u>18,133,408</u>
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	<u>46,048</u>	<u>69,995</u>
短期借入金	1,407,778	1,763,500
1年内返済予定の長期借入金	1,971,825	1,703,582
未払金	<u>3,332,718</u>	<u>2,856,991</u>
未払法人税等	<u>146,015</u>	<u>132,301</u>
販売促進引当金	411,804	413,034
その他の引当金	47,506	39,134
その他	<u>781,955</u>	<u>764,011</u>
流動負債合計	<u>8,145,651</u>	<u>7,742,551</u>
固定負債		
社債	300,000	250,000
長期借入金	3,012,146	2,762,636
債務保証損失引当金	—	580,000
その他の引当金	9,152	11,299
その他	459,205	534,711
固定負債合計	<u>3,780,504</u>	<u>4,138,647</u>
負債合計	<u>11,926,155</u>	<u>11,881,198</u>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年10月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,045,085	3,045,085
資本剰余金	1,673,302	1,673,302
利益剰余金	<u>2,026,355</u>	<u>1,718,528</u>
自己株式	△364,327	△488,747
株主資本合計	<u>6,380,415</u>	<u>5,948,168</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,928	10,042
為替換算調整勘定	△1,682	△7,263
その他の包括利益累計額合計	6,246	2,778
新株予約権	828	3,348
少数株主持分	<u>376,694</u>	<u>297,914</u>
純資産合計	<u>6,764,183</u>	<u>6,252,209</u>
負債純資産合計	<u>18,690,339</u>	<u>18,133,408</u>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年5月1日 至平成23年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成24年10月31日)
売上高	10,105,789	10,427,025
売上原価	6,851,723	6,761,940
売上総利益	3,254,066	3,665,085
販売費及び一般管理費	3,004,759	3,298,724
営業利益	249,306	366,360
営業外収益		
受取利息	7,419	6,023
受取配当金	1,436	401
貸倒引当金戻入額	25,852	—
負ののれん償却額	165,335	15,329
その他	36,987	7,752
営業外収益合計	237,032	29,506
営業外費用		
支払利息	79,339	64,713
持分法による投資損失	36,878	38,902
貸倒引当金繰入額	7,938	37,442
その他	14,405	8,431
営業外費用合計	138,561	149,490
経常利益	347,777	246,376
特別利益		
投資有価証券売却益	7,614	—
特別利益合計	7,614	—
特別損失		
貸倒引当金繰入額	—	154,827
債務保証損失引当金繰入額	—	580,000
事業撤退損	182,643	—
その他	137,598	27,547
特別損失合計	320,242	762,374
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	35,150	△515,998
法人税、住民税及び事業税	85,988	132,915
法人税等調整額	△15,959	△412,959
法人税等合計	70,028	△280,043
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△34,878	△235,954
少数株主利益又は少数株主損失(△)	10,311	△77,041
四半期純損失(△)	△45,189	△158,913

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年5月1日 至平成23年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成24年10月31日)
<u>少数株主損益調整前四半期純損失(△)</u>	<u>△34,878</u>	<u>△235,954</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△688	4,113
持分法適用会社に対する持分相当額	△12,205	△5,580
その他の包括利益合計	△12,894	△1,467
四半期包括利益	<u>△47,772</u>	<u>△237,421</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>△57,290</u>	<u>△162,380</u>
少数株主に係る四半期包括利益	<u>9,517</u>	<u>△75,041</u>

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年5月1日 至 平成23年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年5月1日 至 平成24年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	35,150	△515,998
減価償却費	222,903	249,626
のれん償却額	451,686	438,582
負ののれん償却額	△165,335	△15,329
貸倒引当金の増減額(△は減少)	31,562	180,661
受取利息及び受取配当金	△8,856	△6,424
支払利息	79,339	64,713
為替差損益(△は益)	△7,072	△14
持分法による投資損益(△は益)	36,878	38,902
事業撤退損失	182,643	—
売上債権の増減額(△は増加)	△222,156	242,179
仕入債務の増減額(△は減少)	16,907	23,947
未払金の増減額(△は減少)	204,868	△454,939
債務保証損失引当金の増減額(△は減少)	—	580,000
その他	9,624	73,969
小計	868,144	899,879
利息及び配当金の受取額	10,045	7,885
利息の支払額	△83,049	△74,062
法人税等の支払額	△238,186	△161,990
営業活動によるキャッシュ・フロー	556,953	671,712
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△135,425	△158,181
無形固定資産の取得による支出	△22,740	△235,448
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△190,361	—
差入保証金の回収による収入	45,271	74,097
差入保証金の差入による支出	△90,764	△95,506
その他	71,955	△5,269
投資活動によるキャッシュ・フロー	△322,065	△420,309
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△1,908,230	355,721
長期借入れによる収入	4,520,000	810,000
長期借入金の返済による支出	△2,178,538	△1,327,753
社債の償還による支出	△50,000	△50,000
自己株式の取得による支出	—	△125,413
配当金の支払額	△87,604	△145,915
リース債務の返済による支出	△69,826	△99,049
その他	△21,793	△23,712
財務活動によるキャッシュ・フロー	204,007	△606,122
現金及び現金同等物に係る換算差額	△27	20
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	438,867	△354,699
現金及び現金同等物の期首残高	4,080,713	4,833,752
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	5,000
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,519,581	4,484,052

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年5月1日至平成23年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	ブロードバンド インフラ	クラウドコンピ ューティング インフラ	次世代インター ネット・ユビキ タスインフラ	B2C	アドテクノロジー ーインフラ
売上高					
外部顧客への売上高	<u>2,973,692</u>	<u>839,138</u>	442,494	2,236,407	<u>3,115,389</u>
セグメント間の内部売上高 又は振替高	694,237	70,969	67,970	2,291	34,120
計	<u>3,667,929</u>	<u>910,107</u>	510,465	2,238,698	<u>3,149,510</u>
セグメント利益又は損失(△)	<u>512,390</u>	<u>△72,365</u>	<u>△296,885</u>	298,147	<u>195,478</u>

(単位:千円)

	報告セグメント	その他	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	SI				
売上高					
外部顧客への売上高	246,194	252,473	<u>10,105,789</u>	—	<u>10,105,789</u>
セグメント間の内部売上高 又は振替高	13,451	323	883,363	△883,363	—
計	259,645	252,796	<u>10,989,153</u>	△883,363	<u>10,105,789</u>
セグメント利益又は損失(△)	△31,469	<u>△31,583</u>	<u>573,712</u>	<u>△324,406</u>	<u>249,306</u>

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△324,406千円には、のれん償却額△303,054千円、貸倒引当金の組替額△8,620千円及びその他の連結調整額△12,730千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成24年5月1日至平成24年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	ブロードバンド インフラ	クラウドコンピ ューティング インフラ	次世代インター ネット・ユビキ タスインフラ	B2C	アドテクノロジー ーインフラ
売上高					
外部顧客への売上高	3,020,703	1,089,630	58,138	2,240,180	3,727,728
セグメント間の内部売上高 又は振替高	742,853	93,609	789	967	36,153
計	3,763,556	1,183,240	58,927	2,241,148	3,763,882
セグメント利益又は損失(△)	486,674	43,214	△183,606	208,669	139,211

(単位:千円)

	報告セグメント	その他	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	SI				
売上高					
外部顧客への売上高	215,459	75,183	10,427,025	—	10,427,025
セグメント間の内部売上高 又は振替高	32,366	116	906,856	△906,856	—
計	247,826	75,299	11,333,881	△906,856	10,427,025
セグメント利益又は損失(△)	16,550	△38,387	672,326	△305,966	366,360

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△305,966千円には、のれん償却額△303,587千円及びその他の連結調整額△2,379千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 第1四半期連結会計期間より、一部の報告セグメントについて名称を変更いたしました。なお、セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

旧名称	新名称
ISP's ISP	ブロードバンドインフラ
iDC's iDC	クラウドコンピューティングインフラ
Maker's Maker	次世代インターネット・ユビキタスインフラ
InternetMarketing	アドテクノロジーインフラ

(訂正前)



平成25年4月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成24年12月7日

上場取引所 東

上場会社名 フリービット株式会社
コード番号 3843 URL <http://www.freebit.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石田 宏樹
問合せ先責任者 (役職名) グループ経営管理本部長 (氏名) 清水 高 TEL 03-5459-0522
四半期報告書提出予定日 平成24年12月13日
配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年4月期第2四半期の連結業績（平成24年5月1日～平成24年10月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年4月期第2四半期	10,571	4.0	419	51.2	315	△18.0	△1	-
24年4月期第2四半期	10,167	△0.2	277	-	384	-	51	-

(注) 包括利益 25年4月期第2四半期 △193百万円 (-%) 24年4月期第2四半期 56百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年4月期第2四半期	<u>△0.08</u>	-
24年4月期第2四半期	<u>2.59</u>	<u>2.52</u>

- 当社は、平成24年5月1日付で株式1株につき400株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。
- 平成25年4月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年4月期第2四半期	<u>18,405</u>	<u>6,469</u>	<u>33.5</u>
24年4月期	<u>18,830</u>	<u>6,937</u>	<u>34.2</u>

(参考) 自己資本 25年4月期第2四半期 6,168百万円 24年4月期 6,446百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年4月期	-	0.00	-	3,000.00	3,000.00
25年4月期	-	0.00	-	-	-
25年4月期(予想)	-	-	-	9.00	9.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成24年5月1日付で株式1株につき400株の株式分割を行っておりますが、平成24年4月期の配当金については当該株式分割前の実績を記載しております。なお、25年4月期の配当金(予想)は株式分割後で記載しております。

3. 平成25年4月期の連結業績予想（平成24年5月1日～平成25年4月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,000	8.6	1,800	99.3	1,500	46.1	600	145.0	30.39

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

（注）詳細は、添付資料P.5「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年4月期2Q	20,411,600株	24年4月期	20,411,600株
② 期末自己株式数	25年4月期2Q	868,800株	24年4月期	556,000株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	25年4月期2Q	19,744,955株	24年4月期2Q	19,853,957株

（注）当社は、平成24年5月1日付で株式1株につき400株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して発行済株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(6) セグメント情報等	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループが判断したものであります。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要が出始めたことにより、穏やかな回復傾向にありましたが、欧州の財政危機や円高の長期化等により、景気の先行きは依然不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、平成25年4月期を中期経営計画「SiLK VISION 2013」の最終年度としての目標達成及び次期中期経営計画の橋渡しの期として、「Being The NET Frontier! (Internetをひろげ、社会に貢献する)」の企業理念の下、今後の飛躍的成長を遂げるため以下を基本方針と設定し、取組みを進めております。

<平成25年4月期 基本方針>

- ・固定網からMVNO (Mobile Virtual Network Operator、以下「MVNO」という。)を利用した独自性あるモバイルサービスへの積極的シフト
- ・接続サービスの対象を、PCからSmartPhone/Padなどの新しいモバイル端末にシフト
- ・独自性の高い仮想化技術を採用したVDC (Virtual Data Center、以下「VDC」という。)を中心としたクラウドサービスの拡大とMSP (Management Services Provider) の立上げ
- ・アドテクノロジーを活かした事業展開における市場の優位性の確立
- ・「Cloud@SD」の拡販によるM2M (Machine to Machine、以下「M2M」という。)領域への本格的市場参入

当第2四半期連結累計期間におきましては、成長性の高いクラウドサービスの拡充や、普及が進むモバイル端末を対象とした接続サービスの開発に注力いたしました。その結果、VDCをはじめ、クラウド領域におけるサービス提供が大幅に拡大し、利益に貢献いたしました。また、MVNOサービスは、子会社の株式会社ドリーム・トレイン・インターネット (以下、「DTI」という。)におけるエンドユーザー向け新サービスの提供開始が寄与し、モバイルユーザー数は前年同期の3倍以上となり、大幅に増加いたしました。また、アドテクノロジーインフラにおいてもサービスの品質向上及び営業体制の強化により取引が拡大いたしました。

これらの取組みが功を奏し、売上高は、前連結会計年度に積極的に実行いたしました構造改革プログラム「SiLK Renaissance」により撤退した事業の売上を除いたコア事業において、前年同期比9.8%増の10,571,278千円 (ノンコア事業売上高を含む前年同期比4.0%増)、営業利益は419,780千円 (前年同期比51.2%増)、経常利益は315,002千円 (前年同期比18.0%減) となりました。

また、当第2四半期連結会計期間におきましては、子会社のDTIとエグゼモード株式会社の合併による繰延税金資産の計上等により、法人税等調整額△395,904千円を計上しております。

一方、構造改革プログラム「SiLK Renaissance」の一環として、当社連結子会社である株式会社フルスピードが平成23年5月16日に株式譲渡をいたしました当時のアパレル子会社 (旧ギルドコーポレーション株式会社) に対する貸付金及び同アパレル会社の金融機関からの借入金に対する債務保証について、同アパレル会社より直近の業績は順調に推移しているという説明を受けているものの返済が滞っているという事実を鑑み慎重に判断した結果、貸倒引当金154,827千円及び債務保証損失引当金580,000千円を計上いたしました。その結果、四半期純損失は1,626千円 (前年同期は51,407千円の四半期純利益) となりましたが、同アパレル会社向けの貸付債権の引当金及び連帯債務保証損失の引当金計上は、当第2四半期連結累計期間で完了いたしました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結累計期間より、一部報告セグメントについて名称の変更を行っておりますが、セグメントの内訳に関しましては変更いたしておりません。

① ブロードバンドインフラ (旧ISP's ISP)

戦略的に固定回線依存の体質からの脱却を進め、光回線からMVNOへのシフトの準備が進み、モバイル通信の新規契約数も順調に増加しております。当第2四半期連結累計期間におきましては、モバイル通信の売上増加に加え、「CloudMail」を始めとするクラウドサービスの販売も順調に推移した結果、売上高は3,775,801千円 (前年同期比2.6%増) となりました。一方、子会社の株式会社ギガプライズにおいて、マンション向けISP事業の拡大を図るため、営業体制の整備や代理店開拓等にかかる先行費用が発生したことから、セグメント利益は483,052千円 (前年同期比4.4%減) となりました。

② クラウドコンピューティングインフラ (旧iDC's iDC)

当社の強みであるIPv6と仮想化技術を駆使したVDCサービスにおいて仮想サーバ稼働数及び契約社数は順調に推移いたしました。当第2四半期連結累計期間におきましても、SAP事業者をはじめとする新規顧客獲得及び大手企業からの受注が増加し、黒字転換しております。以上の結果、売上高は1,223,548千円（前年同期比32.9%増）、セグメント利益は58,162千円（前年同期は75,740千円のセグメント損失）と大幅な増益となりました。

③ 次世代インターネット・ユビキタスインフラ (旧Maker's Maker)

中国最大規模のコンシューマーエレクトロニクス企業であるaigo Digital Technology Co. Ltd.との提携によりユビキタス家電の販売を推進し、さらに、M2M領域におけるコアコンポーネントである「Cloud@SD」の開発を進め、シンプルなソリューションによる顧客提案の拡大を継続しております。当第2四半期連結累計期間においては、前連結会計年度においてノンコア事業である家電の自社開発から撤退したことに伴い、赤字幅を大幅に縮小し、利益率の高い独自性のあるソリューションへのシフトを推進いたしました。以上の結果、売上高は58,927千円（前年同期比88.5%減）、セグメント損失は184,295千円（前年同期は298,032千円のセグメント損失）となりました。

④ B2C

当第2四半期連結累計期間においては、子会社のDTIを中心に、成長著しいクラウド領域とモバイル通信領域に対して積極的な事業展開を行い、これまでの固定回線によるインターネット接続サービス依存から、「ServersMan@VPS」や「ServersMan@Disk」といったエンドユーザー向けクラウドサービスと「DTI WiMAX モバイルプラン」をはじめとしたMVNOサービスの提供に注力いたしました。また、月額490円で最大100Kbpsでの常時接続が可能なエンドユーザー向けの無線通信サービス「ServersMan SIM 3G 100」の提供を開始し、モバイルユーザー数を一層拡大させることに成功いたしました。一方、固定回線の依存体質から脱却を図る戦略のもと、今後継続課金の増加が見込めるモバイル会員の新規獲得に要する支援コストや初期費用が前倒しで発生したこと、前連結会計年度末に譲り受けたアルファインターネット事業の構造改革を行ったことから、セグメント利益については前年同期を下回りましたが、これらの施策は、第3四半期連結会計期間以降から利益に貢献する見通しです。以上の結果、売上高は2,241,148千円（前年同期比0.1%増）、セグメント利益は208,669千円（前年同期比30.0%減）となりました。

⑤ アドテクノロジーインフラ (旧InternetMarketing)

SEO（検索エンジン最適化）、リスティング広告（検索連動型広告）及びアフィリエイト広告等インターネットマーケティング関連の各種サービスの品質向上に向けた取り組みや営業体制の強化により、売上高が増加いたしました。また、アドテクノロジー技術を活かした広告プラットフォーム「AdMatrix」において、サービスツールの一つであるリスティング広告自動最適化ツール「AdMatrix SEM Optimizer」を提供開始いたしました。一方、テクノロジーを活かした事業展開で市場での優位性を確立すべく積極的な人材採用を継続したこと、また、第1四半期連結会計期間において、関連事業であるEコマースの運営費の増加及び賃料減額とグループ会社間の連携強化を目的とした連結子会社の本社移転に伴う費用が発生したことから、セグメント利益については減少いたしました。以上の結果、売上高は3,855,582千円（前年同期比20.9%増）、セグメント利益は178,163千円（前年同期比23.0%減）となりました。

⑥ SI

不動産向けシステム開発及びネットワーク提案を強化したこと及び労務コストを削減したこと等が寄与し、黒字転換いたしました。以上の結果、売上高は247,826千円（前年同期比4.6%減）、セグメント利益は16,550千円（前年同期は31,469千円のセグメント損失）となりました。

セグメント別売上高及びセグメント損益

(単位：千円)

区分	売上高	セグメント利益 又は損失(△)
ブロードバンドインフラ	3,775,801	483,052
クラウドコンピューティングインフラ	1,223,548	58,162
次世代インターネット・ユビキタスインフラ	58,927	△184,295
B2C	2,241,148	208,669
アドテクノロジーインフラ	3,855,582	178,163
SI	247,826	16,550
その他	75,299	△38,390
調整額	△906,856	△302,132
合計	10,571,278	419,780

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は18,405,479千円となり、前連結会計年度末と比べて425,171千円減少しました。これは主として、有利子負債の返済等により現金及び預金が376,895千円減少したことによるものです。

負債合計は11,935,693千円となり、前連結会計年度末と比べて42,524千円増加しました。これは主として、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金含む）が517,753千円減少したものの、債務保証損失引当金が580,000千円増加したことによるものです。

純資産合計は、主に配当金の支払いにより利益剰余金が減少したことや自己株式を取得したことにより、前連結会計年度末と比べて467,695千円減少の6,469,785千円となり、この結果、自己資本比率は33.5%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は4,484,052千円となり、前連結会計年度末と比較して349,699千円減少しました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動による資金は741,091千円の増加（前年同四半期は580,764千円の増加）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失が447,372千円あったものの、減価償却費が259,642千円、のれん償却額が436,464千円及び債務保証損失引当金の増加額が580,000千円あったことによるものです。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動による資金は489,688千円の減少（前年同四半期は345,877千円の減少）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が227,560千円及び無形固定資産の取得による支出が235,448千円あったことによるものです。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動による資金は606,122千円の減少（前年同四半期は204,007千円の増加）となりました。これは主に、長期借入れによる収入が810,000千円あったものの、長期借入金の返済による支出が1,327,753千円及び配当金の支払額が145,915千円あったことによるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間において、保守的観点により元子会社関連の特別損失を計上しておりますが、当損失の計上が当第2四半期連結累計期間で完了していること及び各コア事業が概ね順調に推移していることから、通期の業績予想につきましては、平成24年6月14日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(減価償却方法の変更)

国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年5月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益は増加、税金等調整前四半期純損失は減少しておりますが、その影響額は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,873,975	4,497,080
受取手形及び売掛金	<u>3,411,921</u>	<u>3,256,974</u>
商品及び製品	269,595	<u>219,696</u>
仕掛品	16,601	68,049
原材料及び貯蔵品	10,248	9,299
その他	<u>2,532,833</u>	<u>2,583,440</u>
貸倒引当金	<u>△160,928</u>	<u>△168,801</u>
流動資産合計	<u>10,954,248</u>	<u>10,465,739</u>
固定資産		
有形固定資産	<u>1,287,987</u>	<u>1,460,909</u>
無形固定資産		
のれん	<u>4,201,009</u>	<u>3,859,517</u>
ソフトウェア	<u>181,351</u>	<u>285,328</u>
その他	49,740	40,190
無形固定資産合計	<u>4,432,100</u>	<u>4,185,036</u>
投資その他の資産		
投資有価証券	1,233,718	1,233,847
差入保証金	493,890	482,031
その他	<u>781,623</u>	<u>1,077,348</u>
貸倒引当金	<u>△352,919</u>	<u>△499,433</u>
投資その他の資産合計	<u>2,156,313</u>	<u>2,293,794</u>
固定資産合計	<u>7,876,402</u>	<u>7,939,740</u>
資産合計	<u>18,830,650</u>	<u>18,405,479</u>
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	<u>69,098</u>	<u>130,760</u>
短期借入金	1,407,778	1,763,500
1年内返済予定の長期借入金	1,971,825	1,703,582
未払金	<u>3,326,403</u>	<u>2,850,676</u>
未払法人税等	<u>136,015</u>	<u>129,594</u>
販売促進引当金	411,804	413,034
その他の引当金	47,506	39,134
その他	<u>742,233</u>	<u>766,763</u>
流動負債合計	<u>8,112,665</u>	<u>7,797,046</u>
固定負債		
社債	300,000	250,000
長期借入金	3,012,146	2,762,636
債務保証損失引当金	—	580,000
その他の引当金	9,152	11,299
その他	459,205	534,711
固定負債合計	<u>3,780,504</u>	<u>4,138,647</u>
負債合計	<u>11,893,169</u>	<u>11,935,693</u>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年10月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,045,085	3,045,085
資本剰余金	1,673,302	1,673,302
利益剰余金	<u>2,086,638</u>	<u>1,936,097</u>
自己株式	<u>△364,327</u>	<u>△488,747</u>
株主資本合計	<u>6,440,698</u>	<u>6,165,738</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,928	10,042
為替換算調整勘定	<u>△1,682</u>	<u>△7,263</u>
その他の包括利益累計額合計	<u>6,246</u>	<u>2,778</u>
新株予約権	828	3,348
少数株主持分	<u>489,708</u>	<u>297,920</u>
純資産合計	<u>6,937,481</u>	<u>6,469,785</u>
負債純資産合計	<u>18,830,650</u>	<u>18,405,479</u>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年5月1日 至平成23年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成24年10月31日)
売上高	10,167,565	10,571,278
売上原価	6,888,027	6,862,535
売上総利益	3,279,537	3,708,742
販売費及び一般管理費	3,001,875	3,288,962
営業利益	277,662	419,780
営業外収益		
受取利息	7,419	6,023
受取配当金	1,436	401
貸倒引当金戻入額	25,852	—
負ののれん償却額	165,335	15,329
その他	36,987	7,752
営業外収益合計	237,032	29,506
営業外費用		
支払利息	79,339	63,781
持分法による投資損失	36,878	38,902
その他	14,405	31,599
営業外費用合計	130,623	134,284
経常利益	384,071	315,002
特別利益		
投資有価証券売却益	7,614	—
特別利益合計	7,614	—
特別損失		
貸倒引当金繰入額	—	154,827
債務保証損失引当金繰入額	—	580,000
事業撤退損	182,643	—
その他	112,915	27,547
特別損失合計	295,559	762,374
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	96,126	△447,372
法人税、住民税及び事業税	85,988	140,208
法人税等調整額	△59,419	△395,904
法人税等合計	26,568	△255,695
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	69,557	△191,676
少数株主利益又は少数株主損失(△)	18,149	△190,049
四半期純利益又は四半期純損失(△)	51,407	△1,626

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年5月1日 至 平成23年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年5月1日 至 平成24年10月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	69,557	△191,676
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△688	4,113
為替換算調整勘定	△12,205	△5,580
その他の包括利益合計	△12,894	△1,467
四半期包括利益	56,663	△193,143
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	39,306	△5,093
少数株主に係る四半期包括利益	17,356	△188,049

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年5月1日 至平成23年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成24年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	96,126	△447,372
減価償却費	232,553	259,642
のれん償却額	448,709	436,464
負ののれん償却額	△165,335	△15,329
貸倒引当金の増減額(△は減少)	16,747	154,387
受取利息及び受取配当金	△8,856	△6,424
支払利息	79,339	63,781
為替差損益(△は益)	△7,072	△14
持分法による投資損益(△は益)	36,878	38,902
事業撤退損失	182,643	—
売上債権の増減額(△は増加)	△254,127	154,946
仕入債務の増減額(△は減少)	16,907	61,662
未払金の増減額(△は減少)	205,424	△454,939
債務保証損失引当金の増減額(△は減少)	—	580,000
その他	12,015	143,548
小計	891,955	969,257
利息及び配当金の受取額	10,045	7,885
利息の支払額	△83,049	△74,062
法人税等の支払額	△238,186	△161,990
営業活動によるキャッシュ・フロー	580,764	741,091
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△159,236	△227,560
無形固定資産の取得による支出	△22,740	△235,448
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△190,361	—
差入保証金の回収による収入	45,271	74,097
差入保証金の差入による支出	△90,764	△95,506
その他	71,955	△5,269
投資活動によるキャッシュ・フロー	△345,877	△489,688
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△1,908,230	355,721
長期借入れによる収入	4,520,000	810,000
長期借入金の返済による支出	△2,178,538	△1,327,753
社債の償還による支出	△50,000	△50,000
自己株式の取得による支出	—	△125,413
配当金の支払額	△87,604	△145,915
リース債務の返済による支出	△69,826	△99,049
その他	△21,793	△23,712
財務活動によるキャッシュ・フロー	204,007	△606,122
現金及び現金同等物に係る換算差額	△27	20
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	438,867	△354,699
現金及び現金同等物の期首残高	4,080,713	4,833,752
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	5,000
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,519,581	4,484,052

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年5月1日至平成23年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	ブロードバンド インフラ	クラウドコンピ ューティング インフラ	次世代インター ネット・ユビキ タスインフラ	B2C	アドテクノロジー ーインフラ
売上高					
外部顧客への売上高	<u>2,985,937</u>	<u>849,738</u>	442,494	2,236,407	<u>3,154,321</u>
セグメント間の内部売上高 又は振替高	694,237	70,969	67,970	2,291	34,120
計	<u>3,680,174</u>	<u>920,707</u>	510,465	2,238,698	<u>3,188,442</u>
セグメント利益又は損失(△)	<u>505,439</u>	<u>△75,740</u>	<u>△298,032</u>	298,147	<u>231,490</u>

(単位：千円)

	報告セグメント	その他	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	SI				
売上高					
外部顧客への売上高	246,194	252,473	<u>10,167,565</u>	—	<u>10,167,565</u>
セグメント間の内部売上高 又は振替高	13,451	323	883,363	△883,363	—
計	259,645	252,796	<u>11,050,929</u>	△883,363	<u>10,167,565</u>
セグメント利益又は損失(△)	△31,469	<u>△31,601</u>	<u>598,233</u>	<u>△320,571</u>	<u>277,662</u>

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△320,571千円には、のれん償却額△299,219千円、貸倒引当金の組替△8,620千円及びその他の連結調整額△12,730千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成24年5月1日至平成24年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	ブロードバンド インフラ	クラウドコンピ ューティング インフラ	次世代インター ネット・ユビキ タスインフラ	B2C	アドテクノロジー ーインフラ
売上高					
外部顧客への売上高	3,032,948	1,129,938	58,138	2,240,180	3,819,428
セグメント間の内部売上高 又は振替高	742,853	93,609	789	967	36,153
計	3,775,801	1,223,548	58,927	2,241,148	3,855,582
セグメント利益又は損失(△)	483,052	58,162	△184,295	208,669	178,163

(単位:千円)

	報告セグメント	その他	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	SI				
売上高					
外部顧客への売上高	215,459	75,183	10,571,278	—	10,571,278
セグメント間の内部売上高 又は振替高	32,366	116	906,856	△906,856	—
計	247,826	75,299	11,478,134	△906,856	10,571,278
セグメント利益又は損失(△)	16,550	△38,390	721,912	△302,132	419,780

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△302,132千円には、のれん償却額△299,752千円及びその他の連結調整額△2,379千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 第1四半期連結会計期間より、一部の報告セグメントについて名称を変更いたしました。なお、セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

旧名称	新名称
ISP's ISP	ブロードバンドインフラ
iDC's iDC	クラウドコンピューティングインフラ
Maker's Maker	次世代インターネット・ユビキタスインフラ
InternetMarketing	アドテクノロジーインフラ